

神のおとずれ

日本聖公会 神戸教区報



2017年
8・9月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<http://www.nskk.org/kobe/>

発行責任者
司祭 芳我秀一

印刷所
文明堂印刷所

現在堅信受領者3名、教会を建てる

司祭 バルナバ 瀬山 会治

聖霊と祈りに支えられて

島根県安来市広瀬町は、かつて山陰の覇者として栄えた尼子一族が拠点とした月山富田城の城跡があり、尼子家の家臣・山中鹿之助は、より強くなることを願って「我に七難八苦を与えたまえ」と祈ったと言う逸話が伝えられている祈りの土地です。

今年3月12日に中村主教様により聖別式が行われ、広瀬基督教会は新たなスタートを切りました。この日を迎えることは広瀬教会にとりましては念願であり、それは長い祈りの日々でした。当日は、予想していませんでした人数を大きく上回る方々がご出席してください、また教区内外の皆様方には色々ご支援ご協力を



いただき、紙面をお借りして感謝してお礼を申し上げます。聖別式には山陰伝道区の教会からもお手伝いをいただき、信徒数3名の小さな教会が、神様の交わりの中にある強い絆で結ばれた信仰者の群

れの一員であることを再確認

することができました。聖別

式のあいさつで信徒代表の吉

村信兄が、かつて中村主教を

団長とした英国巡礼の旅に参

加した際、カンタベリー大聖

堂の礼拝堂で祈っておられる

ときに広瀬教会再建への強い

思いを感じられたと述べられ

ていましたが、広瀬町と言う

小さな町で、聖霊なる神様の

働きによって教会が建てられ

れ、これからも神様が共に宣

教の働きを進められてゆかれ

ることを実感しました。

広瀬教会の歴史

広瀬基督教会の歴史の始まりは、中海を囲む4つの教会の歴史と重なっています。英国から来られた宣教師たちが、まるでガリラヤ湖を中心に宣教されたイエス様のように町々に福音の種を蒔いて旅をされました。松江市を中心に宣教活動を展開していた英国人宣教師たちが、島根県能

義郡広瀬町を訪れるようになったのは1887年、明治20年の頃からでした。当初は英国人の宣教師が、町の人びとから罵詈雑言を浴びせられたこともありました。1892年6月には京都から来られた同志社の神学生がキリスト教の伝道集会を開催したところ、足立文太郎、朝山繁之助の両名と激論となりました。

奇跡が起るとき

たかのような香りを漂わせています。さらに壁は太さの異なる角材で凹凸がつけられており、視覚的にも音響効果に優れています。

しかし、11月にB・F・バック

ストン司祭よりこの両名を含

めた4名が受洗して広瀬の地

におけるキリスト教伝道の最

初の実りとなりました。その

後、広瀬町を大洪水が襲い、

貧しく食事も出来ない苦しむ

40名の子どものために

「博愛学校」が設立され、信

徒が教師を務めました。

ランドマークとしての教会

新教会は「広瀬町」にこだ

わった建築がなされています。

入口には、寄贈された絵

画や彫刻が飾られており、足

立美術館のある町にふさわし

い教会となっています。正面

外壁と聖卓上部には、たたら

職人が打ちたたいた十字架が

掲げられており、日本刀を思

わせる作りとなっています。

また、広瀬町の杉の木を使っ

た礼拝堂は、大自然に包まれ

たかのような香りを漂わせて

います。さらに壁は太さの異

なる角材で凹凸がつけられて

おり、視覚的にも音響効果に

優れています。

信徒3名であっても教会は

建てられるという一つのモデ

ルとなり、小さな教会に希望

を与えることができることを

願っています。教会建築に

よらず、大きな事業をするに

は信徒数の多少にかかわら

ず、どんな教会でも牧師と信

徒が一致団結する必要があります

ことを強く感じました。教会

内部で不和があるとき、足の

引つ張り合いが起こり、なか

なか計画は進みません。しか

し、教会が一つになるときに、

教会は神様の体となり、この

世に奇跡を起こすことができ

るのです。

今後は、ランドマークとし

て地域の人々の中で共に生

き、他教会の協力も得て、宣

教活動を広げてゆきたいと

願っています。そのために皆

様方の祈りとご支援を今後も

よろしくお願いいたします。

(米子聖ニコラス教会牧師・広瀬基

督教会管理牧師・鳥取聖ルカ教会

管理牧師・浜田基督教会管理牧師)